

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200937	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	有限会社横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレンジィ都岡		
所在地	(〒241-0031) 横浜市旭区今宿西町296		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月28日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境にあり静かに日常を過ごしていただけます。  
理念にあります「大きな家族とともに過ごす」を基本に入居者様と家族の  
ような距離感で職員が接しており入居者様が笑顔でいれるように支援しています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年4月5日	評価機関 評価決定日	令和3年5月20日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は中原街道から住宅街に少し入ったところに位置し、ゆったりした敷地内に建物が2棟あり、ユニットごとに分かれています。事業所正面と裏側に畑があります。

〈優れている点〉

設立後17年目を迎え、「大きい家族として共に暮らす」という事業所の方針が受け継がれ、在籍10年以上のスタッフもおり、利用者本位の安心・安全なサービスが提供されています。コロナ禍で、多くの行事は中止となっていますが、コロナ禍でも三密を避けた行事として、ドライブで花見を実施し、利用者によるこぼれています。例年は事業所で納涼祭を企画し、地域の住民にも参加をしてもらい、地域との交流の場となっています。地域の貢献して、事業所は中学生の社会福祉体験の場としても受け入れ、地域との交流を深めています。

〈工夫点〉

ユニットごとに別棟になっていることから、バーベキューパーティやハロウィンパーティ、クリスマス会などの行事を共同で実施し、ユニット間の利用者や職員の交流に取り組んでいます。また、広い敷地を生かして家庭菜園を実施し、利用者は収穫した野菜をバーベキュー大会で食べるなど、自然とのふれあいを大切にしています。新型コロナウイルス感染症防止対策として検温・消毒・マスク着用の励行を徹底しています。また防護服も備えています。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	フレンジィ都岡
ユニット名	1号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を踏まえて、実践している。	「大きい家族として共に暮らす」という事業所理念を大切にしています。日々の介護サービスの取り組みについて、職員は、自分の家族だったらどう接するのかという視点で振り返りながら、利用者本位のサービスの実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度はコロナ禍の為、入居者の外出機会が減り地域とのかかわりがあまりなかった。落ち着いたら外出したいです。	自治会に加入し、地域とのつながりを大切にしています。今年度はコロナ感染症防止の観点から中止と成っていますが、納涼祭で地域住民の人が参加したり、中学生の福祉体験の実習の場として受け入れ、地域への貢献に取り組んでいます。	コロナ感染症拡大が落ち着いたら、今まで培ってきた利用者や地域とのかかわりを継続し、充実させていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者と外出する事で顔見知りの関係を築く事を心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為2か月に1度の会議を郵送で行っています。構成員の方々からメールにてねぎらいのお言葉等を頂いて、サービスの向上に活かしています。	運営推進会議は書面での開催としています。会議では事業所の活動状況や健康管理などを報告するとともに、参加メンバーから活動状況に関する評価・意見・要望を伺い、事業所としての取り組みや考え方を伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	その都度、生活支援課の担当さんに相談させて頂き、協力関係を築いています。	区の生活支援課とは必要に応じて相談し連携を取っています。高齢障害支援課では、特別養護老人ホームの申し込み方法についてサポートを受けています。行政の連絡会などにも参加し協力関係を築くよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員は理解しており利用者の尊厳を尊重するケアに繋がっている。	事業所のマニュアル「身体拘束ゼロへの手引き」や市の虐待防止に関するアンケートを利用して身体拘束をしないケアについて職員に周知しています。身体拘束適正委員会は運営推進会議のメンバーにも委員を依頼し、委員会の活動状況については運営推進会議の中で報告しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての定義を把握し利用者との接し方に疑問がないか日々意識するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度を把握した上で利用者個々に必要性を感じた場合は活用するよう話し合いを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は契約に関する説明を行い、改定等の際も都度説明をし理解して頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段の利用者やご家族とのコミュニケーションの中から要望等を組み上げ運営に反映するよう努めています。	運営に関する要望・意見については、家族との面会、電話・手紙などでのやりとりを通じて、コミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境づくりに努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と管理者が話しやすいような関係性を築いていて意見や要望を聞き運営に反映させている。	運営に関する意見や提案は、管理者やリーダーがユニット会議などで職員とやり取りしています。ベテランスタッフも多く、話しやすい関係性を築いており、日常活動のなかでも意見・提案があり、効率的な運営につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の能力や勤務状況に応じて評価し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の情報を告知したり、ベテランスタッフがケアについて積極的に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、同業者との交流の機会が減り中々ネットワーク作りや勉強会に参加出来てきないのが現状です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人とコミュニケーションをしていく上で不安に思っている事や要望等に耳を傾け安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを大切にして入居に対して不安に思っている事や要望などを聞き、出来る限り対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常的なお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしていく場所や人がいる場合はその関係が途切れないよう努めている。	本人との日常のコミュニケーションから、今までの人間関係や習慣、馴染みの場所を聞いたり、家族や生活支援課からも情報を得ています。川崎地域に思い入れのある利用者の誕生日には、個人レクリエーションとして担当スタッフが当該地域に連れて行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをする事で孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握しできる限り対応できるよう努めている。	本人の思いや意向の把握については、スタッフは利用者一人ひとりに積極的に話しかけたり、心の声に耳を傾けるよう努めるなど、日常のコミュニケーションを大切にしながら取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸い上げ介護計画に反映している。	月1回行うユニット会議において、利用者のケアプランを話し合い、介護計画に反映しています。アセスメントは6ヶ月に1度実施していますが、利用者の状況によって適宜見直ししています。現在管理者は通常勤務も兼務しており、利用者の状況についてよく把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、それを活用し職員間で情報共有に活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い関係構築に努めている。	訪問診療は月に2回、訪問歯科は週1回です。診察結果は専用の用紙を用意し記録しています。利用者に体調の変化などがあった場合は電話で連絡し伝えていきます。個々の外来受診に際して、家族が行かれない場合はスタッフが行っています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適時連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎えそうな利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしている。	「重度化した場合における（看取り）の指針」という書式を整備していますが、現在看取りは行っていない為、その旨は入居希望の面談の際に伝えていきます。急変時には救急対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍の為、毎年消防隊員の方の講習がなく、事業所内での消防訓練にて実践力を身につけるよう努力してま		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍の為、地域の方々には避難訓練の告知はせず、事業所内で行いました。	夜間想定避難訓練は年に1回、消防署立ち合いで行っていますが、今年度はコロナ禍で実施できていません。他に設備点検の際に消火訓練を行っています。災害備蓄は水や食料、機材など7日間分を目標とし、コロナ禍で新たにマスクと消毒液も追加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けている。	常に人生の先輩として敬意を払い、個々に寄り添った言葉がけや対応をしています。慣れ合いの中で本人を傷つけることのないよう、留意しています。人格の尊重やプライバシーの確保についても管理者は常に職員に対し啓発しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人と一緒に部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極的に行って頂いている。	利用者との日々の会話から、食べたいメニューなどの材料を購入し、イベントとして行ったり、正月のおせち料理、納涼祭、クリスマス会や誕生日にケーキを購入して祝ったりと楽しんでいます。食器洗いや配膳などの手伝いも、できる人には頼んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っている。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導やオムツの人のパット交換を行っています。ポータブルトイレを利用している人も数名います。誘導でリハビリパンツから布パンツへ移行できた人もいます。トイレでの衣服の上げ下げも自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行い出来る限りトイレでの排便ができるよう支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。	入浴は基本1日3名で、週2回午前中に実施しています。入浴の拒否傾向にある人の声掛けでは、入浴を連想しないコミュニケーションから入り、気分を上げて誘うなどの工夫をしています。職員とゆっくり話せる楽しい時間となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしてあり、すぐに確認できるような場所に保管している。訪問ドクターと相談しその症状に合わせて薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、できる限りの支援を行っている。ご家族との外出の支援を行っている。	今年度はコロナ禍で自粛していますが、過ごしやすい季節には声掛けし、散歩やスーパーマーケットに買い物に出かけています。車いす利用者も順番に出かけています。花見などの車での外出は定例化しており今年度も実施する予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の状態を把握しご本人で金銭管理が出来そうであればお金を持って頂き希望をくみとり買い物が出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのやりとりが出来るよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならない空間を保ち季節に応じた装飾を行い居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	毎日利用者と職員と一緒に掃除をしています。空気清浄機を設置し、清潔で居心地の良い環境となっています。利用者同士が会話しやすいように座席の配慮をしています。季節に合った飾りを利用者と作成し飾っています。ベランダに面した大きな窓や天窓から陽が良く入り、明るい空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮したスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾りつけをして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	冷蔵庫は遠慮して貰っていますが、危険が無い限り部屋のレイアウトは自由です。家族の写真を飾ったり、仏壇、テレビ、和ダンス、鏡台など馴染みの物を置き、個性ある居心地の良い居室になっています。掃除の際に職員が安全を確認しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活を送れるよう支援している。		

事業所名	フレンジィ都岡
ユニット名	2号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を踏まえて、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度はコロナ禍の為、入居者の外出機会が減り地域とのかかわりがあまりなかった。落ち着いたら外出したいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者と外出する事で顔見知りの関係を築く事を心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為2か月に1度の会議を郵送で行っています。構成員の方々からメールにてねぎらいのお言葉等を頂いて、サービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	その都度、生活支援課の担当さんに相談させて頂き、協力関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員は理解しており利用者の尊厳を尊重するケアに繋がっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての定義を把握し利用者との接し方に疑問がないか日々意識するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度を把握した上で利用者個々に必要性を感じた場合は活用するよう話し合いを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際は契約に関する説明を行い、改定等の際も都度説明をし理解して頂くよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段の利用者やご家族とのコミュニケーションの中から要望等を組み上げ運営に反映するよう努めています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と管理者が話しやすいような関係を築いていて意見や要望を聞き運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の能力や勤務状況に応じて評価し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の情報を告知したり、ベテランスタッフがケアについて積極的に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の為、同業者との交流の機会が減り中々ネットワーク作りや勉強会に参加出来てきないのが現状です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人とコミュニケーションをしていく上で不安に思っている事や要望等に耳を傾け安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを大切にして入居に対して不安に思っている事や要望などを聞き、出来る限り対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のご家族との面談等から得た情報をもとに他に必要なサービスがある場合は出来る限り対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が暮らしていく上で日常のお手伝いをお願いし一方的な関係ではなく、共に暮らす一員としての関係性を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な場合はご家族にも協力をお願いし、共にご本人を支える関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしていく場所や人がいる場合はその関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握し職員が間に入りコミュニケーションをする事で孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了してもご本人やそのご家族からの要望がある場合は相談、支援を行うよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のコミュニケーションからその人その人の希望、意向を把握しできる限り対応できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際に生活歴、生活環境、馴染みの暮らし方、サービス利用状況等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動記録、バイタルチェック表などの記録を通じて一人ひとりの現状把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族、訪問ドクターとのコミュニケーションから得た情報を活用しユニット会議で話し合い意見を吸い上げ介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に行動記録を記入し、それを活用し職員間で情報共有に活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々生まれるニーズに対応できるよう職員間で話し合い、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人その人に応じた地域資源を把握し出来る限りそれを活用し豊かな生活がおくれるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族の希望に添ったかかりつけ医を選択して頂き、訪問ドクターへの報告、相談をこまめに行い関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	緊急連絡先である病院に適時連絡し対応の指示を受け都度受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院や定期受診している病院等に相談し情報の共有に努め、よい関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期を迎えそうな利用者については家族に連絡し事業所として出来る限りの対応をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	コロナ禍の為、毎年消防隊員の方の講習がなく、事業所内での消防訓練にて実践力を身につけるよう努力してま		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍の為、地域の方々には避難訓練の告知はせず、事業所内で行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人その人の人格や個性を受け入れ、尊厳を守るような言葉がけに配慮するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が日常を過ごすうえでコミュニケーションを通じて発している希望や主張に耳を傾け自己決定できるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者それぞれの生活リズムを大切にし出来る限り個々のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴の際はご本人と一緒に部屋で洋服を選んだりし、その人の好みの恰好が出来るよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は利用者の意見を取り入れメニュー通りではなく、時にはアレンジを加える事もある。片付けに意欲的な利用者には積極的に行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量はチェック表を用いて把握し一人一人の状態に応じて対応できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い汚れや臭いが生じないように支援を行っている。ご自分で口腔ケアが行えない利用者にはそのお手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘については飲食物での工夫やトイレに行った際に腹部マッサージを行い出来る限りトイレでの排便ができるよう支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表を用いて衛生上の管理、個々に合わせた入浴ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせて日中休息をして頂いたり、その人の生活リズムで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はファイリングしてあり、すぐに確認できるような場所に保管している。訪問ドクターと相談しその症状に合わせて薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人に有する力を活かし役割をもって頂いたり、楽しめるようなことを提供したり張りのある生活を送って頂くよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望にそって外出できるよう、できる限りの支援を行っている。ご家族との外出の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の状態を把握しご本人で金銭管理が出来そうであればお金を持って頂き希望をくみとり買い物出来るよう支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人、ご家族の希望がある場合は電話でのやりとりが出来るよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは第一に衛生に気を配り、不快にならない空間を保ち季節に応じた装飾を行い居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルを細かく分けて、利用者の関係性にも配慮したスペースを提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人やご家族の意向を取り入れ使い慣れた物や飾りつけをして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレは常時点灯、各所に表示を置くなどして、自立した生活を送れるよう支援している。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドィ都岡

作成日： 令和 3 年 5 月 24 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員がやりがいを感じられるような職場環境を作れていない。	職員のやりがいを感じられるような職場環境を作る。	個々の能力を見極め役割を振り分けモチベーションの向上に繋げるようにする。	12ヶ月
2	14	2ユニットありますがユニット同士の交流がほとんどない。	ユニット間の交流を持てるようにする。	イベント等を通してユニット間での交流を増やしていく。	12ヶ月
3	13	自施設内、外での研修が出来ていない。	コロナ禍で外での研修は中々厳しいが自施設での研修を徐々に出来るようにする。	人員に余裕が出来たら自施設での研修が出来るようベテランスタッフに相談し取り組んでいく。	12ヶ月
4	3・29	地域との交流がほとんどない。	コロナ禍ではあるが地域との交流機会を持てるようにする。	イベント等にお招きするのは中々厳しいが顔を合わせた時は積極的にご挨拶する。	12ヶ月
5	19	ご家族関係が以前よりは増えてきているがまだ少ない。	ご家族との関係をより深くしていく。	こまめに連絡し関係性を深くしていく。	12ヶ月